



菅波 茂

2002年1月20日、東京都内の新高輪プリンスホテルでアフガン復興NGO会議が開かれた。アフガニスタンから26、日本13、米国と欧州から各8、アジア4の計59NGO団体が参加した。また21日と22日にはアフガン復興を支援する61カ国の閣僚らと22の国際機関代表が集まるアフガン復興支援会議も開催された。どちらも大変な熱気だった。

NGO会議で私は次のような趣旨のスピーチを行った。

最初に米国同時多発テロから、このアフガン復興会議に至

るまでに亡くなられたすべての人たちの魂の冥福を心からお祈り申し上げたい。

ちへの人道支援は、私たちの良心である。

アフガン復興NGO会議

日本が世界でトップの寿命を誇っているのは、誰もが教育と医療を受けられるシステムと、お互いが助け合うという相互精神を元にした豊かな民主主義のおかげである。

第二次世界大戦後、平和を志向する憲法の下で、今日のアフガニスタンと同様の状況から人権と平和に満ちた国を築き上げた。特に平和を志向する憲法の下で武器を輸出しないという原則は、私たちすべての日本人の世界に対する誇りである。そして日本を必要としてくれる人たちへの人道支援は、私たちの良心である。

AMDAはアフガニスタンに對して97年から小規模融資、地震被災者救援、難民帰還のための医療機関整備、難民キャンプでの診療を行ってきた。98年にはすべての子どもにワクチン接種するための医療和平構想を呼びかけた。AMDAの哲学は「必要とされればどこへでも行く」である。



最後に、アフガン復興のためのこれらの会議により、国連、政府、NGO、そしてすべての人たちの連携によって、アフガニスタンの人たちに一刻も早く、平和と幸せが訪れることを心から願いたい。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)